



重力レンズで目に見えない大きな質量を観測

私自身はこれまで、宇宙の起源や銀河の星々が生まれた歴史を研究してきました。時間や空間の概念をも扱う宇宙物理の研究は、スケールの大きさ、ダイナミズムが大きな魅力です。研究室は2016年4月にスタートしたばかりですが、将来的には、国立天文台ハワイ観測所のすばる望遠鏡を使い、遠くの銀河からの光がその手前にある大きな物体の重力によって曲げられる「重力レンズ効果」を観測しようと考えています。重力レンズ効果が働くということは、光を発していなくても、そこに大きな質量があるということ。ブラックホールやダークマターなど、今まで目に見えなかったものがどこにあるのかを解く道標となるかもしれません。まだまだ未知が多い宇宙の神秘に一步でも近づく、壮大でロマンにあふれる研究です。



二間瀬 敏史 教授



研究内容のプレゼンテーションは、回を重ねるごとに円滑に進められる



太陽系における惑星それぞれの軌道を計算し、地球に及ぼす影響を探る



宇宙には未開のフィールドが広がっているだけに、興味深く学べる